

・**ブラジルで黄熱流行が続く**

ブラジル南東部で発生している黄熱の流行は3月も続いています。2018年2月20日から3月13日までの患者数は375人で、外国人旅行者の患者数も11人になりました(米州保健機関 2018-3-20)。患者発生の多い地域はミナス・ジェライス州、サンパウロ州、リオデジャネイロ州で、外国人旅行者の感染はリオデジャネイロ近郊の観光地 Ilha Grande 島で多くみられます(WHO 2018-3-9)。これらの外国人旅行者は黄熱ワクチンの接種を受けていませんでした。患者の発生数は次第に減少している模様ですが、サルスの集団感染がブラジル南部で多発しており、今後、パラグアイやアルゼンチンにも流行が拡大する可能性があります。

米国CDCは今回のブラジルでの黄熱流行を、3段階の流行危険度のうちレベル2(高度の注意が必要)に分類し、ブラジルへの渡航者にワクチン接種を呼びかけています(米国CDC 2018-3-15)。黄熱ワクチンは1回接種で生涯有効とされていますが、米国CDCはブラジルへの渡航者に関して、接種後10年が経過していれば、追加接種を受けるよう勧告しています。

・**フィリピンで麻疹の患者数が増加**

今年1月から2月初旬までにフィリピンで麻疹の患者が800人以上確認されました(英国 FitForTravel 2018-3-3)。これは昨年の3倍の数になります。患者発生はミンダナオ島の Zamboanga や Davao で多くみられています。日本国内では2014年に、フィリピンからの輸入症例を起点とする麻疹の国内流行が発生しています。現地に滞在する渡航者は、ワクチン接種を受けるなどして、日本に持ち込まないように注意する必要があります。

・**東南アジアでの Dengue 熱流行状況**

今年は東南アジアでの Dengue 熱患者数が昨年よりも少ない数で推移しています。マレーシアやシンガポールは雨季になっていますが、Dengue 熱の患者発生は低いレベルです。今後、タイやベトナムなどでも雨季が始まるため、本格的な流行はこれからとなります。

・**西アフリカでラッサ熱が流行**

西アフリカでラッサ熱の流行が拡大しています。とくにナイジェリアで患者数が多く、今年1月から3月中旬までに確定患者は300人以上にのぼり、このうち95人が死亡しました(WHO 2018-3-23)。流行はベニン、ガーナ、ギニア、リベリアなどでも報告されています。

ラッサ熱はウイルスによっておこる出血熱で、ネズミの尿に排泄される病原体に接触して感染します。西アフリカでは毎年1月~6月に流行がみられていますが、今年は媒介するネズミの数が増加したため、大規模な流行になった模様です。

・**南アフリカでマラリア流行地域が拡大**

南アフリカ共和国ではマラリア流行地域がモザンビーク国境付近に限局していましたが、昨年からは北部の Limpopo でも患者の発生がみられています。今年 3 月には英国人旅行者 2 名が、この地域にある自然公園を訪問した後に、熱帯熱マラリアを発病しました。(英国 NaTHNaC 2018-3-16)。Limpopo は首都プレトリアの北方で、旅行者が訪問しやすい場所にあります。英国保健当局は同地域に滞在する旅行者にマラリアの予防内服を推奨しています。

・ヨーロッパで今年も麻疹が流行

昨年に引き続き、今年もヨーロッパ各地で麻疹の流行が発生しています(ヨーロッパ CDC 2018-3-21)。今年にはギリシャで患者数が多く、3月中旬までに南部を中心に1131人の患者が報告されました。フランスでもボルドーのある西部地域を中心に400人以上の患者が報告されています。日本では昨年1年間の麻疹患者が189人であり、ヨーロッパ各地での患者数の多さがわかります。

・ジカウイルス感染による新生児の障害発生率は7%

南米のフランス領ギアナなどで2016年に行われた調査によれば、546人の妊婦がジカウイルスに感染し、このうち39人(7%)の妊婦が出産した新生児に神経系や眼の障害が確認されました(New England Journal of Medicine 2018-3-14)。この障害発生率は昨年、米国CDCが発表したデータとほぼ同じ数値です。妊婦の感染が妊娠初期の場合、障害発生率は13%と最も高くなりますが、妊娠中期や後期に感染したケースでも障害が発生しています。